

Campus Today



松本広域消防局と合同で大規模な防火訓練

万が一の火災を想定して 自衛消防隊各班の行動を確認

大学および病院の防火訓練が11月18日(金)に行われた。消防法改正に伴い本学は自衛消防隊の見直し強化を図り、その一環として今回は松本広域消防局と連携した初の合同訓練を実施。同消防局からは消防車5台が出動し、学生避難誘導や自衛消防隊各班の行動訓練、松本広域消防局による消火・救出など、緊迫感あふれる訓練を展開して、参加者各員が火災時における行動を確認した。

訓練はまず大学および病院の新人職員を対象に、学内の消防設備の取り扱い説明とともにそれを聞いた演習が行われた。消火器を使った消火訓練や補助散水栓を使った放水訓練、本館5階から避難梯子を使って外壁を降りる避難訓練、本館南棟屋上から斜降式救助袋を用いた降下訓練、ハンカチなどで鼻・口を覆い仮設の煙道を通る煙道避難訓練などを順次こなした新人職員たちは、「貴重な体験ができた。火災が



松本広域消防局のはしご車による本館4、5階への消火・救出訓練

発生した場合はすぐに対応できるようにしたい」「火災を起こさないという意識が高まった」と話していた。

午前11時40分からは「本館西棟4階の歯科技工室から出火、初期消火できない」との想定のもとに大学の避難・消火訓練を実施。自衛消防隊の通報連絡班、初期消火班、避難誘導班、応急救護班、安全防護班の各班がそれぞれ情報把握や報告、館内非常放送、消防署への緊急通報、初期消火活動、避難

誘導など迅速に的確に行えるかどうかを実際の行動に移してチェックした。

松本広域消防局からははしご車1台、タンク車2台、特殊工作車1台、救急車1台、計5台の車両が出動。5階にいた模擬要救者2人を窓からはしご車で救出したほか、消防隊が4階から1人を救助した。

また、本館601教室で受講中の第5学年生の避難誘導も行われた。応急救護所では、胸部打撲や左前腕部切創、右足首骨折などの症状を抱えた模擬要救者を収容し、応急救護班の看護師らが対応にあたった。

午後3時から行われた病院の訓練は、院内での避難用具や自動火災報知設備副受信機、消防用設備の取扱い説明が行われた後、午後4時に病院3階滅菌サンプライセンタールから火災が発生したとの想定で、消火および入

院患者・外来患者の避難誘導訓練を実施。歯科医師ら病院職員は模擬入院患者1人を病室から担架とキャリタンで玄関まで搬送した。避難途中に患者1人が心肺停止状態になったとの想定で、ダミー人形を使ったAEDによる心肺蘇生が内科医師参加のもと行われた。

訓練終了後、自衛消防隊長で防火管理者の杉浦雅之総務課長は「本番さながらの訓練によって各班の役割と行動を確認できた。この訓練を生かし、いざというときには冷静沈着に対処してほしい」と講評した。

松本広域消防局塩尻消防署の飯島一廣署長は「大学と消防署が連携して緊張感をもって取り組めた。万が一火災が起こった場合は、①火事だ、と大声で叫ぶ。②初期消火に努める。③安全に避難する。この3点に留意して行動してください」と行動の基本を説き、訓練を締めくくった。

学生たちの笑顔とパワーあふれる 第25回体育祭を開催



大縄跳びでジャンプする学生たち

第25回体育祭が11月23日(水)、本学陸上競技場で開催された。誰もが楽しめるスポーツを通じて、ふだんあまり接することのない他学年や衛生学院の学生と友好・交流を深めることを開催趣旨とし、第1学年の加藤直樹実行委員長をはじめとした第1学年・第2学年の学生有志が主体となって、企画・実施された。

第1学年から第4学年までの歯学部学生、衛生学院の学生、職員など約100人が参加して、玉入れや綱引き、大縄跳びや○×クイズ、400mリレーなどで熱い戦いを繰り広げた。矢ヶ崎 雅理事長・学長も体育祭の最初から最後まで応援し、「皆さんからパワーをもらいました。このパワーで今後も大学を盛り上げてほしい」と、学生たちの奮闘ぶりを称賛していた。

また、当日は歯学部の一休体験入学の参加者たちもキャンパスツアーの途中で立ち寄り、一緒にゲームを楽しんだり豚汁を味わったりして在学生たちと交流した。

閉会式では、体育祭の「最優秀選手」に第1学年の宮原良太君が選ばれ、「盛り上げてくれたで賞」には物理学・田中忠芳講師が、「おしゃれ賞」には衛生学院第1学年の田澤春奈さんが選ばれて、それぞれ表彰された。寒空の下ではあったが、学生たちの笑顔と熱気にあふれた体育祭だった。

お天気歳時記

元日本気象協会調査役
お天気コンサルタント
ありが 淳し



「わたつみの
豊旗雲に入日さし
今宵の月夜
あきらけくこそ」

万葉集にある中大兄皇子(天智天皇)の歌。
豊旗雲は、今ではあまり使われていないが、古い歌にはいくつか詠まれている。順徳天皇の「八雲御抄」によると、「大きな旗に似た夕焼け雲」だとある。万葉初期、このようにすでに雲の形や色から、雲に名前をつけて区別していたわけである。

なお、皇居の豊明殿の壁面にはこの歌の意を基に、中村岳陵画伯が描いた壁一面に大きく「豊旗雲」の綴れ織り張りで飾られている。常は見ることはできないが、外国の要人が来日し、この豊明殿で宮中晩さん会が開かれた際、それがテレビに放映されて一般でも豊旗雲をかいま見ることができた。

さて、1月は日本海側には雪が降り、時には豪雪になったりするが、太平洋側は乾燥した晴天が続く。この狭い日本で、どうして極端な気象分布ができるか、本州を縦断する山脈の存在がうらめしいほどである。

「雪の高田」と、積雪の多さで世界的に知られているが、高田(上越市)の降水量は年間3000ミリもある。その大半が冬の季節風によって降る雪である。

また、天和元年高田城下で積雪の上に「この下に高田あり」の高札を立てたところ、加賀の飛脚某が「諸国まで高く聞えし高田さへ今日来てみれば低くなりけり」と高札に書きそえたという笑い話がある。

日差しは日毎に明るさを増し、「光の春」「風光る」季節へ。

主張 低迷が続く歯科医療費

国民が1年間に医療機関で傷病の治療のために支出した医療費の総額を「国民医療費」という。その大半を占める公費・医療保険給付分と自己負担分のほか、いわゆる自由診療分も含まれる。ただし、対象が「傷病」であるので、正常な分娩、健康診断、予防接種などは除かれる。また入院時の室料差額、歯科材料差額なども含まれていない。

昨年9月に厚生労働省が発表した推計値では、2009年度の国民医療費は36・7兆円、前年度からは1・2兆円の増加であり、国民1人あたり28・2万円、前年からは3・6%増えたことになる。年次別に見ると、1975年5・9兆円、85年14兆円、95年30兆円と増加を続けていて、その大半は医科分（入院・入院外で占められている。と）で、医科診療分が近年の約20年間に約20兆円から約30兆円へと大幅に増加しているのに対して、歯科診療分はこの期間を通じて約2・5兆円のままほとんど増加していないことに注目すべきである。

総医療費における歯科診療分のシェアは、1960年代には常に10%を超えていた。例えば62年には12・4%を占めていた。ところが、80年代からは長期低落傾向となり、2009年には医科診療分26・74兆円に対してわずか2・56兆円、シェアとしては7・1%にすぎない。前年は7・4%だったから明らかに低下している。

医科は着実に増加を続けているのに、どうして歯科診療費は伸びないのだろうか。日本歯科医師会の幹部諸氏は歯科医療が窮乏にあるのは、歯科大学の乱立による歯科医師数の急増に

あるとする。「歯科医師過剰論」を唱え、長年にわたって新規参入の抑制を訴えてきた。「医療費抑制のために医者を減らす」という官僚の思惑とも合致したようで、歯科大学の定員削減や国家試験の難関化が彼らの運動の「成果」となった。

しかし、冷静に考えてみるならば、歯科医師数の激増よりもむしろ診療単価が長年にわたって低いまま据え置かれていたことを問題視しなければならぬのではないだろうか。

歴代の保守党政権は、医療費の増大を財政の圧迫原因と考え、一貫して「低医療費政策」を採ってきた。1983年には厚生省保険局長吉村 仁が「医療費亡国論」を唱え、それが国策でもあり保険点数は低いレベルに設定されてきた。

医科が医学の発展とともに次々と開発される新しい診療技術や薬品・材料などを積極的に保険適用させていったのに対して、歯科では「自由診療の余地を残す」という考え方で、保険診療の枠を広げる努力を怠っていたとしか考えられない。

診療内容をきびしく制限する指導や審査、監査が横行する一方で、実質的な混合診療が黙認されているといった側面もある。「お上の言うことにおとなしく従っていない」ということなのかも知れない。

保険診療の締め付けも、新規参入歯科医師数の削減策も、官僚による医療費抑制の一環であるのだが、歯科医師会がそれらに抵抗した動きはほとんど感じられない。

昭和元禄と言われた時代の「差額徴収やり放題」の夢を捨てられなかった「エライ先生」たちが日本歯科医師会の舵取りを続けていたことが、今日の歯科界の低迷につながっているように思われる。(笠原 浩)

台湾より高校理事一行が本学を表敬訪問 友好関係の構築と交流発展に期待



台湾の光啓高級中学一行を迎え歓迎の挨拶をする矢ヶ崎理事長・学長

11月5日(火)、台湾の光啓高級中学(日本の高校に相当)の黄東榮理事長を団長とする理事一行19人が本学を訪問し、

矢ヶ崎 雅理事長・学長以下本学役員と懇談、交流および学内見学を行った。

光啓高級中学は台北市郊外にある私立学校で、国からの助成金を受けない私立校として、独自の教育システムを導入している高校である。毎年2回日本を訪問し、ほぼ毎回長野県を訪問している。

交流会の席上、黄理事長は「何回か訪れたことのある日本の長野県に、このような素晴らしい環境と優良な施設を有した大学があることに驚いた」と本学訪問の感想を述べられた。

続いて江 惠真校長より光啓高校の紹介と、毎年実施している日本修学旅行について説明があり、「今後は訪問コースに本学を入れ、学生たちの見聞を広めたい」との申し出があった。また、優秀な学生を送り出したい

と語った。

現在台湾では日本以上の少子化時代が訪れ、学生確保のためより魅力あるプログラムや海外研修などを企画する高校が増加しており、今回の表敬訪問を契機に友好関係を築くことは両校にとって大変有益であると考え

歯科衛生士室・新井麻衣子チーフ

ポスター発表で最優秀発表賞を受賞

第28回日本障害者歯科学会総会・学術大会

11月5日(土)・6日(日)に福岡国際会議場(福岡県)において第28回日本障害者歯科学会総会・学術大会が開催されました。

歯科衛生士室からは新井麻衣子チーフと私(大澤)の2人が参加・発表を行いました。今回の演題は「介助磨き時における

の抗癌剤耐性獲得機構(GST-pi/MRP)の誘導により多剤耐性を獲得する」は、優秀ポスター発表賞として古郷幹彦大会長から表彰を受けた。この賞は、基礎および臨床研究の350を超えるポスタープレゼンテーションのなかから口腔外科学の発展に寄与する研究成果について審査され、投票により授与されるもので、本年度は21演題に授与された。

丸川助手は受賞にあたり、「地道に研究を続けた成果を認めていただき光栄です。研究指導をいただいた口腔顎顔面外科学講座の上松隆司講師をはじめ、共同研究者の先生方に深く感謝いたします。今後も口腔癌の克服を目指して日夜研究に励み、研究成果を社会に還元したいと思えます」と述べていた。

また、秋田助手は、再生医学の演題「ポリリン酸はヒト歯髓由来細胞の象牙芽細胞形質獲得を促進する」を発表し、ポリリン酸の歯髓再生医療への応用について活発な討論が行われた。

一方、高橋助教が口演した演題「ヒト培養自己骨髄間葉系細胞移植による顎骨再生療法法の確立」は、骨髄幹細胞移植を歯科領域で初めて臨床応用した研究成果を発表したもので、380演題の口演から優秀口演賞15題にノミネートされるなど、本学研究者の研究成果が認められた実り多き学会であった。

(大学院 第4学年 丹羽 崇)

閉会式に集まった参加者を前にして、理事長からトロフィーと記念品が授与され、新井チーフは「光栄な賞を受賞し今後の励みになります」と述べました。詳細は、すでにホームページ(<http://www.takara-dental.jp/report/award/prophylax/index.html>)に掲載されていますので、よろしければ、ご覧ください。

今回の学術大会参加は、今後の歯科衛生士としての可能性や視野を広げるいい機会になりました。

最後に今回の発表に多大なご指導をいただいた、障害者歯科学講座小笠原 正教授を始め、障害者歯科学講座の諸先生方へ感謝申し上げます。

(歯科衛生士室 歯科衛生士 大澤 愛)



表彰を受ける新井チーフ(中央)

口腔顎顔面外科学講座
丸川和也助手
優秀ポスター発表賞を受賞
第56回日本口腔外科学会総会・学術大会



丸川助手(中央)と受賞を祝福する講座のメンバー

カールソンの英語!!!

Happy New Year! あけましておめでとございませう。

前回は長野県の教育史、特に武士藩校の学校理念などについて触れました。今回も続けて私の興味を引いた学則をもう一つ取り上げたいと思います。

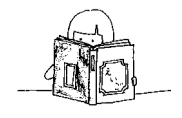
「要衣要食ヲ互ニ誹謗スル事勿レ菜根ヲ咬得ハ百事成スヘキ基本ナリ」(粗末な衣類や食べ物をけなしたりしてはならない。根菜をよく噛むことは何事でも達成するための基本である。)

(Don't disparage one another's frugal clothing or food. Being able to chew vegetable roots is the basis for accomplishing anything.)

なんでよく噛むことが武士の藩校生にとって大切なのでしょう。この規則はまるで小学生の児童によく物を噛んで食べるように、と歯科衛生士の人が指導しているような感じがします。なぜかなあ...と不思議に思いい、調べてみました。

すると、実はこの後半の部分は「菜根譚」という中国の古典からきていることが分かりました。藩校規則の「菜根ヲ咬得ハ百事成ス」は、原文の中国語では「人能咬得菜根、則百事可做」となり、「野菜の硬い根を咬む内に、本当の味が判って来る」というような意味だそうなんです。ですから、右の藩校の規則は、「生活の淡泊さや難さなどもしっかりと噛みしめて受け入れれば、すべてが可能だ」というような意味になるでしょう。

ですから、私もお正月のおせち料理の根菜などはよく噛んで食べた方がよさそうです。



—より良い歯科医療をめざして— 臨床現場から新製品のアイデア生まれる

障害者歯科学講座・松尾浩一郎准教授は、口腔ケア補助具のリップオーブナー（開口唇器）「ハミエール」を開発し、ティーンアンドケー株式会社（東京都）より12月26日（月）に発売された。また、小児歯科学講座の水谷智宏助教は、幼児が歯磨き時に転倒などした際のケガを防ぐ歯ブラシを考案し、製品化を目指している。いずれも、臨床現場からのニーズを基に発想、工夫を凝らしたもので、特許を取得。新製品として歯科医療分野での貢献が期待される。



幼児のケガを防ぐ歯ブラシを考案した水谷助教（左）と開口唇器を開発した松尾准教授（右）

障害者歯科学講座・松尾浩一郎准教授 口腔ケアのための リップオーブナーを開発

効果的な口腔ケアのためには口腔内の観察が重要だが、松尾准教授によれば「障害者や要介護者などが多い病院、施設では、口を開けてくれない患者さんが多くて介助者の方々は苦労している」という。

既存の開口唇器具としては「口角鉤」があるが、元来が口腔内撮影の補助具であったため開口に非協力的な者への使用は考慮されておらず、挿入が困難で、かつ高価なため、口腔ケアの現場では普及していない。



リップオーブナーの使用例

こうした臨床上のニーズから、松尾准教授は、誰もが簡単に早く操作でき口腔内視野が確保できるリップオーブナーの開発に取り組んできた。

考案した器具はハサミに似た形状。使用方法は、翼形部分を横にして上下口唇に挿入してから、持ち手をあごの方へ90度回転させると、ストッパーによって適切な開口幅が保持できる。いったん開口すれば手を離してもそのまま保持が可能で、使用者は両手を使って口腔ケアが容易にできる。

となった。互いの意見を集約し、商品開発につながっていくれば」と話し、今後の展開に期待を寄せている。

松尾准教授は「このリップオーブナーを使用すれば、口腔ケアの時間短縮や清掃のしやすさの向上など効率化が図られ、口腔ケアを受ける対象者側の苦痛や負担軽減にもつながる。病院や介護施設での需要に応えられると思う」と話している。

本製品は、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の平成21年度シーズ発掘試験により開発が開始され、平成22年に「口腔開口器具」として特許出願し、特許第4819955号に登録された。同年12月に口腔ケア製品販売会社であるティーンアンドケー株式会社と共同開発契約を締結。さらに製品開発製造のトイハウス株式会社（東京都、株式会社JMC（神奈川県）とも共同開発契約を結び、試作品を基に臨床現場での試験を経て、製品化に至った。

材質はポリメチルペンテンで、販売価格は1200円。転倒時に物を握っていると、手を

小児歯科学講座・水谷智宏助教 幼児の歯磨き時のケガを防ぐ 歯ブラシを試作・考案

病院小児歯科には、歯磨き中にケガをした子どもが年平均5、6人は訪れる。最近では、頬の内側が切れ、出血した子どももいた。水谷助教は受診に訪れる保護者に対して、歯磨き中の事故に対する注意を呼びかけたが、「なんとか事故を減らしたい」という思いが、新歯ブラシの考案につながった。

東京消防庁の調べによると、乳幼児が歯磨き中に受傷し救急搬送される事故は年間平均43件。大半が1、2歳児で、歯ブラシを口に入れたまま転倒するケースだ。小さい子どもはペングリップで歯ブラシを持つのはむずかしく、バームグリップで歯ブラシを握ることが多い。転倒時に物を握っていると、手を



水谷助教が考案した歯ブラシ

開くことができず、事故につながる。3歳児の父親でもある水谷助教は、「私の娘も歯ブラシをくわえたまま歩き回ることがあり、見ていて危険だと感じたことが幾度かあります」と、多くの親と同様に、既製品を用いた子どもの歯磨きに不安を覚えていた。転んだときのケガを防ぐ歯ブラシはいくつか発売されているが、「わが子に実際に使わせてみると、ケガ防止のため施された傘状のストッパーが邪魔

になつて上手に磨けなかった」と言う。水谷助教が考案し試作した歯ブラシは、既存の乳幼児用歯ブラシにオポジションとして取り付けるタイプで2種類がある。一つは歯ブラシの柄に半円型のリングを付けたもので、親指以外の4本の指で握る。もう一つは柄の先端部に丸い小さなリングを取り付けたもので、人差し指を入れて使う。磨きやすい上に、いずれもリングおよび指がストッパーの役割を果たし、転倒時などに歯ブラシが咽頭もしくは頬の粘膜に刺さることはない。

この歯ブラシは、「歯磨きに於ける口腔内外傷発生防止用歯ブラシ」として特許登録（特許第4732545号）された。「乳幼児だけでなく、要介護高齢者や障害者にも対応できるように、製品化につなげて不慮の事故を防いでいきたい」と、現在、協力企業を求めている。

産学のパートナーシップを築き製品化を考える

病院ニーズ産業化研修会 in 松本歯科大学

歯科医療現場でのニーズと地元企業の技術力を融合させて共同で製品開発を目指す「病院ニーズ産業化研修会 in 松本歯科大学」が11月9日（水）、講義館203教室で開かれ、塩尻市や松本市の企業25社の役員や技術者など約30人が参加した。塩尻市振興公社・塩尻商工会議所・信州メディカル産業振興会の主催で、総合歯科学研究所顎口腔機能制御学部門・増田裕次教授がコーディネーターを務め、5グループに分かれてワークショップ形式で行われた。



診療器具について討議する各務教授のグループ

也教授や口腔顎顔面外科科学講座・各務秀明教授、社会歯科学講座・八上公利准教授、障害者歯科学講座・松尾浩一郎准教授、小児歯科学講座・水谷智宏助教の5人が各グループのファシリテーター（調整・進行役）となつて、事前に病院で実施した「現場で困っていること」のアンケート内容を説明。グループは「病院の予約受付システムの簡略化」「水量を調節できるエアースケーラーの開発」「子どもが怖がらない顎模型」「スケールリング時にゴーストに飛沫が入らないようにするには？」といったアルジネット印象材を清掃しやすくするには？」以上5つの優先課題を決めて話し合った。約30分間の討議の結果、各グループの代表が課題解決や製品化のアイデアを発表した。今回は定員を超える参加申し込みがあり、研修会での議論も白熱して、地元企業の歯科医療分野への関心の高さが伺えた。増田教授は「本学と産業界とがパートナーシップを築く第一歩

口腔衛生学講座

牧茂教授

女性の口腔に関する 特有の病気について講演

口腔衛生学講座・牧茂教授は11月28日（月）、長野市保健所にて女性の口腔に関する特有の病気をテーマに講演した。長野市歯を守る市民の会成人専門部会の招きに応じたもので、約60人が聴講した。



講演する牧茂教授

牧教授はまず思春期性歯肉炎と妊娠性歯肉炎を取り上げ、歯垢の蓄積が原因で女性ホルモン分泌増加に伴って歯周組織に影響を受けることを分かりやすく説明した。また、発症の9割が50歳以上の女性とされるドライマウスの病態や発症の原因、治療法についても解説した。さらに、老年期における骨密度低下による骨粗鬆症にも触れ、歯科でのパノラマX線写真を用いて骨粗鬆症をスクリーニングし歯科への受診を勧めるとよいとする本学歯科放射線学講

多岐に及んだ一般講演7題を活発に論議

第73回松本歯科大学学会（例会）

11月12日（土）に第73回松本歯科大学学会（例会）が講義館201教室で行われた。

一般講演は、7題の口頭発表が行われ、歯学部講座、総合歯科医学研究所のみならず、病院歯科技工室による「歯槽頂線の記入における検討—ニッシン402L模型—」の共同研究

座・田口明教授の研究成果を紹介し、歯科医師が早期発見に貢献できることを明らかにした。歯周病と全身の健康の関係については、とりわけ歯周病がリスク因子となつて低出生体重児・早産の可能性が高くなることに注意を促した。

終わりに、よく噛むことが、満腹感や記憶・学習効果、ストレスの減少、筋肉の活性化などに

つながることも話し、「女性が元気で生き生きとした人生をおくるためにも、かかりつけの歯科医院で定期的に健診を受け、口腔ケアを心がけてください」と締めくくった。

講演後には、聴講した市民から気になる口腔内の状態について質問があり、本学病院の診療科の紹介を含めて丁寧に相談に



活発な質疑応答が行われた学内学会

合による歯学研究の発展」と題しご講演いただいた。佐々木教授は、東北大学が進めてきた異分野融合研究の代表事例について解説された。融合領域における研究は現在まで多くの成果が生み出されており、われわれの属する歯学は最も異分野融合による学問体系を有していること、今後さらに社会的な位置づけを高めることが十分可能であり発展する領域であることも紹介された。

小児歯科学講座 教授 大須賀直人

Alumni News

松本歯科大学校友会

学生時代を懐かしみ和気あいあいと九州支部同窓会を開催

九州歯科大学大会の開催に合わせて毎年行われる校友会九州支部（九州人会）同窓会が、長崎県の担当で思案橋のいけす割烹「川正」で、10月15日（土）



に開催されました。九州各県より24人の卒業生と家族1人の参加がありました。

香川県支部

重々しい世相を吹き飛ばすかのよう

明るく楽しく納涼会

8月27日（土）に香川県支部の納涼会が、丸亀市のホテルオークラ丸亀にて行われました。まず、支部長である増田修一先生より大学の近況や先だって開催された校友会総会へ出席したことの報告などがありました。最近では歯科業界のみならず、

母校から聞こえてくるニュースも明るい話題は少なく、各々ができることをやり続ける重要性を再認識しました。

今回は開催会場を変更したことで、普段は都合で出席できない先生方も数多くご参加いただき、いつもとはひと味違う食卓となりました。

最後に副支部長である梅村謙二先生のお話で終宴となり、一同帰路へつきました。この次の機会はおそらく年末年始になりませんが、それまでに少しでも多くの良いニュースが聞ければと思っています。



（長崎県支部 7期生 古豊彦）

今回の会場をご推薦下さった7期生・嶋田安孝先生の乾杯のご挨拶で納涼会は始められました。災害などの重々しいニュースをふき飛ばすかのようには美味しそうな料理やお酒がテーブルいっぱいには並べられました。シヤンパンで乾杯の後には運ばれて

の参加がありました。懇談会は午後6時より開かれ、支部長の吉武幹雄先生の挨拶と大学の現況報告・九州支部の活動報告があり、また会計の門司達也先生から会計報告がありました。

6時30分より懇親会に移り、今年度の九州人会会長の曾我菜穂子先生の挨拶に続き、福岡県の阿部孝二先生の乾杯で始まりました。長崎の海の幸を堪能しながら学生時代を懐かしんだり、仕事のこと、子どものこと、家庭のことなどを時

間が経つのも忘れて話し込みました。

くる料理に舌鼓を打ちながら、近況などの会話に花が咲いておりました。

今回は開催会場を変更したことで、普段は都合で出席できない先生方も数多くご参加いただき、いつもとはひと味違う食卓となりました。

最後に副支部長である梅村謙二先生のお話で終宴となり、一同帰路へつきました。この次の機会はおそらく年末年始になりませんが、それまでに少しでも多くの良いニュースが聞ければと思っています。

旧交を温めつつ、久しぶりの再会に盛り上がる

24期生同窓会を開催

24期生の同期会が、9月18日（日）に東京都の小田急ホテルセンチュリーサザンタワーにて行われました。昨年は気がつけば大学を卒業し各々の道を歩き出して早10年目という節目の年でもあります。

まず総会では同期会を運営する

ための定款が取りまとめられた他、24期同期会幹事長に同期の卒業準備委員会を牽引された向山英明君が就任するなど役職等の総会議題が満場一致で承認されました。

続いて行われた懇親会には、遠く北は北海道から南は沖縄県

の参加がありました。懇談会は午後6時より開かれ、支部長の吉武幹雄先生の挨拶と大学の現況報告・九州支部の活動報告があり、また会計の門司達也先生から会計報告がありました。

6時30分より懇親会に移り、今年度の九州人会会長の曾我菜穂子先生の挨拶に続き、福岡県の阿部孝二先生の乾杯で始まりました。長崎の海の幸を堪能しながら学生時代を懐かしんだり、仕事のこと、子どものこと、家庭のことなどを時

間が経つのも忘れて話し込みました。

3つのクラブの新設を承認 2012年度の新役員を選出

体連・文連合同総会

体育連絡協議会と文化連絡協議会の合同総会が11月30日（水）、本館講堂で開かれた。

2011年度の活動報告に次いで、馬術部の脱会、およびサーフィン愛好会、パラグライダー愛好会、MDUフィットネスクラブ（愛好会）の新設が承認され、2012年度の役員が選出された。

2012年度の新役員は次のとおり。○は学年を表記・敬称略

回 体連役員
委員長 永田 貴士 ③サッカー部
副委員長 粥川 勇也 ③ゴルフ部
総務 荻原 良幸 ②スキー部
会計 高岡 瞬 ③硬式野球部
企画 小見山高彬 ③バドミントン部
活動監 川口 大輔 ③バスケットボール部

回 文連役員
委員長 上堂 義明 ③パソコン研究会
副委員長 松下 雅衣 ③中国語会話部
総務 本山 朋宏 ④軽音楽部
会計 岩崎 拓也 ④自然科学部
企画 伊壺 洋佑 ④まんが研究会
活動監 野本 冬歌 ①茶道部

回 歯学部
正課委員長 大橋 宗正 ③サッカー部
副委員長 永田 和也 ②サッカー部

〔昇任〕11月1日付
中村 良二（事務局入試広報課長）
小倉 英文（事務局入試広報課長）
塩原 健一（事務局管理課長）
小澤 博（事務局入試広報課長）

〔昇任〕11月1日付
浦野 春美（事務局入試広報課長）
鈴木 友子（看護師登録課長）
青木 悠奈（看護師登録課長）

父母会台湾支部会が発足

留学生父母の活発な交流に期待して

台湾の6月4日（土）、父母会台湾支部会が発足した。新支部の開設は、留学生の保護者からの要望や意見交換の場を求め、声に応えるため、台湾南部の父母を中心に昨年より準備が進められてきたものである。

当日、台湾高雄市内の「漢来大飯店」に留学生父母4組8人が集まり、支部会設立を決議し、第3学年呉 宇傑君の父親である呉 文彬氏が満場一致で初代支部会長に指名された。現在の会員は26人で、今春には副会長などの役員を選任する予定。

初代支部会長に就任した呉氏は「従来は海外の父母が大学で開催される父母会総会に参加することは困難であり、大学側との意見交換の機会が皆無であった。支部会設立を契機に今後は

台湾人留学生父母より代表者を総会に派遣し、父母間の交流を積極的に進めていきたい」と話している。日本には旧正月を過ごす習慣が無く、学生たちは寂しい思いをしているので、食事会などを企画していきたい」と抱負を語った。

受験生の皆さんへ
見せてほしい 君の個性 君の情熱

一般入試（I期）
センター利用入試（I期）
特待生選考試験（I期）

2012年 2月 2日（木）
2月 3日（金）

●出願期間 1月6日（金）～1月30日（月）
●試験場 本学・東京・大阪

お問い合わせ
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp

人事異動

〔採用〕11月1日付
浦野 春美（事務局入試広報課長）
鈴木 友子（看護師登録課長）
青木 悠奈（看護師登録課長）

〔昇任〕11月1日付
中村 良二（事務局入試広報課長）
小倉 英文（事務局入試広報課長）
塩原 健一（事務局管理課長）
小澤 博（事務局入試広報課長）



初代支部会長に就任した呉氏（前左列から2人目）

〔退職〕11月30日付
後藤 志織（歯学部特待生）
飯島 勲（歯学部特待生）

〔組織変更〕12月1日付
飯島 勲（歯学部特待生）

Economic News 内外の経済 12月22日付

日本円	8,395.16円
米国ドル	12,107.74ドル
金地金店頭価格（消費税込み）	
売り（1グラム）	4,291円
買い（1グラム）	4,187円
白金地金店頭価格（消費税込み）	
売り（1グラム）	3,861円
買い（1グラム）	3,705円

認定医
2011年9月3日
水谷 智宏（歯学部助教）
日本小児歯科学会専門医

1月行事予定
17日（火）27日（金）
後期定期試験（第1～3学年）
26日（木）27日（金）
大学院発表会
29日（日）
創立記念日（40周年）
31日（火）
共用試験C B T（第4学年）

2月行事予定
2日（木）3日（金）
一般入試（I期）
特待生選考試験（I期）
4日（土）5日（日）
第105回歯科医師国家試験
6日（月）
一般入試（I期）合格発表
センター利用入試（I期）合格発表
特待生選考試験（I期）合格発表
7日（火）
衛生学院推薦入試（後期）
衛生学院一般入試（後期）
15日（水）
進級試験（第2～3学年）
17日（金）
大学院入試（II期）
18日（土）
共用試験O S C E（第4学年）
20日（月）3月2日（金）
後期試験（衛生学院第1学年）
24日（金）
大学院入試（II期）合格発表